

# 歴史的変遷からみた旧堺港の 活性化に関する研究

緑地計画学

山田一乃



# 研究背景

堺は日明貿易や南蛮貿易などの交易港として栄えた環濠都市であり、旧堺港を中心に海から発展してきた。

しかし、近年、埋立地の造成、臨海工業地帯の整備に伴い、旧堺港は衰退し、かつての賑わいが消失した。



# 研究目的

旧堺港の繁栄・衰退過程を歴史的変遷から捉え、活性化のあり方について探った。



# 研究方法

## ①調査方法

### ◆史料・文献リスト

著者	著名	巻号
三浦周行	堺市史	第三巻
		第四巻(資料編)
		第五巻(資料編)
小葉田敦	堺市史 続編	第二巻
高橋康夫等	図集 日本都市史	—
豊田武	堺-商人の進出と都市の自由	—
朝尾 直弘 等	堺の歴史	—

橋爪紳也	海遊都市	—
橋爪紳也	フォーラム堺学	第8集
山中永之佑	目で見る堺市の100年	—
宮本憲一	大都市とコンビナート・大阪	—

⇒計25の資料・文献

## ②時代区分

中世 (1334～1602)

近世前期(1603～1703)

近世後期(1704～1867)

近代前期(1868～1945)

近代後期(1946～1989)

## ③評価項目

◆「海岸線・港湾状況」や  
「市街地の状況」

⇒空間特性

◆「海外との交易状況」

⇒交易特性

◆「市街地・港湾施設の  
管理・運営状況」

⇒管理・運営特性

# 第2章

## 中世(1334~1602)

### 空間特性

- ・町は直接海岸に面していた
- ・海岸は砂浜・遠浅で、小規模な船を引き上げるだけの自然港であり、港は建設されていなかった
- ・大型船は沖合に停泊して、港との間は舢舨で連絡する必要があった
- ・町割りは碁盤目状でなく、濠は不整形に町を巡っていた
- ・市街地は大道が南北、大小路が東西を通る
- ・大道東側には豪商や小店舗、大道西側には納屋(蔵)や湯屋(旅館)が集積

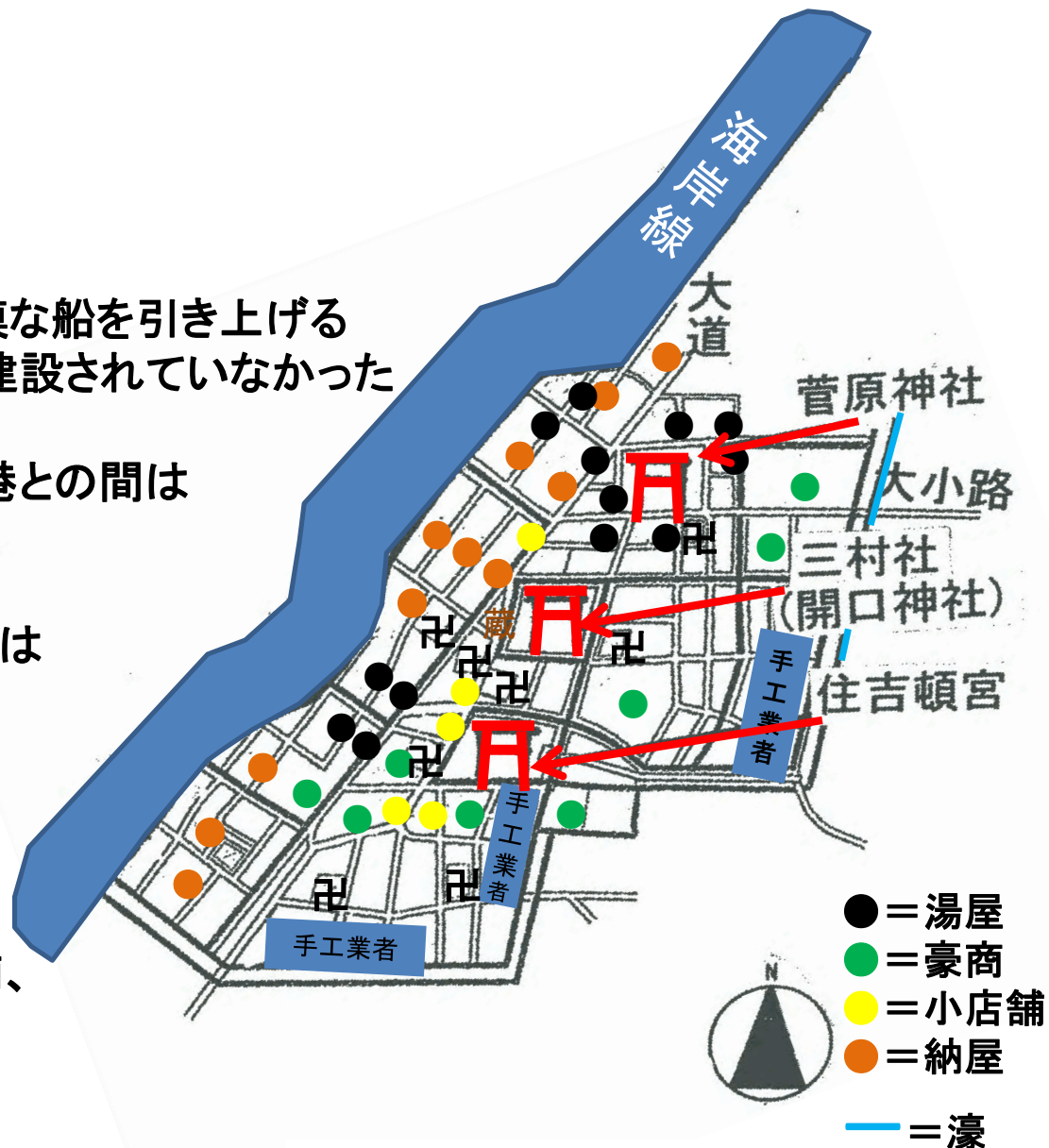


図 16世紀の市街地(南荘)と海岸線の様子

# 第2章

## 中世(1334~1602)

### 空間特性

- ・町は直接海岸に面していた
- ・海岸は砂浜・遠浅で、小規模な船を引き上げるだけの自然港であり、港は建設されていなかった
- ・大型船は沖合に停泊して、港との間は舢舨で連絡する必要があった
- ・町割りは碁盤目状でなく、濠は不整形に町を巡っていた
- ・市街地は大道が南北、大小路が東西を通る
- ・大道東側には豪商や小店舗、大道西側には納屋(蔵)や湯屋(旅館)が集積

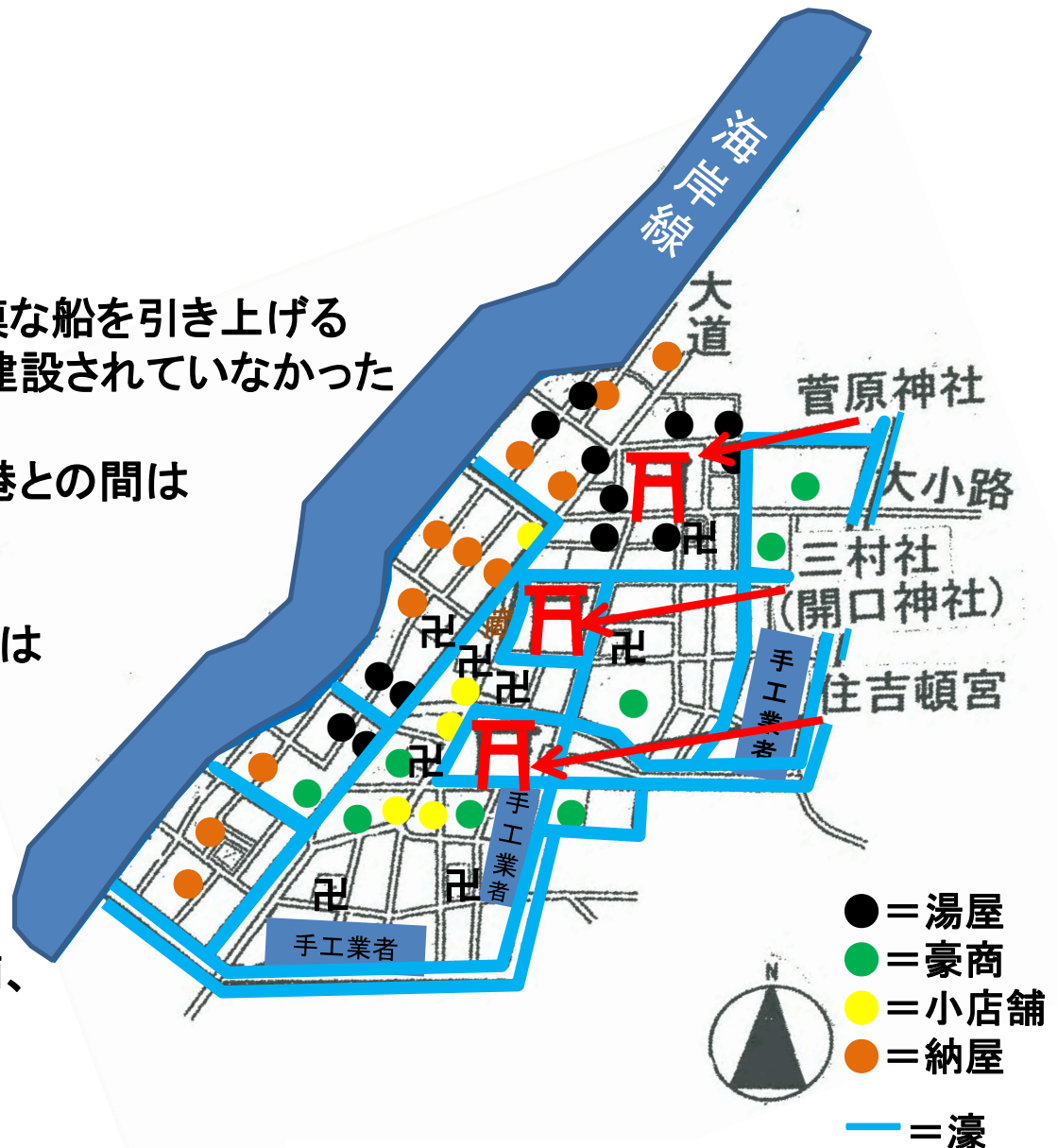


図 16世紀の市街地(南荘)と海岸線の様子



# 第2章

## 中世(1334~1602)

### 空間特性

- ・町は直接海岸に面していた
- ・海岸は砂浜・遠浅で、小規模な船を引き上げるだけの自然港であり、港は建設されていなかった
- ・大型船は沖合に停泊して、港との間は舢舨で連絡する必要があった
- ・町割りは碁盤目状でなく、濠は不整形に町を巡っていた
- ・市街地は大道が南北、大小路が東西を通る
- ・大道東側には豪商や小店舗、大道西側には納屋(蔵)や湯屋(旅館)が集積

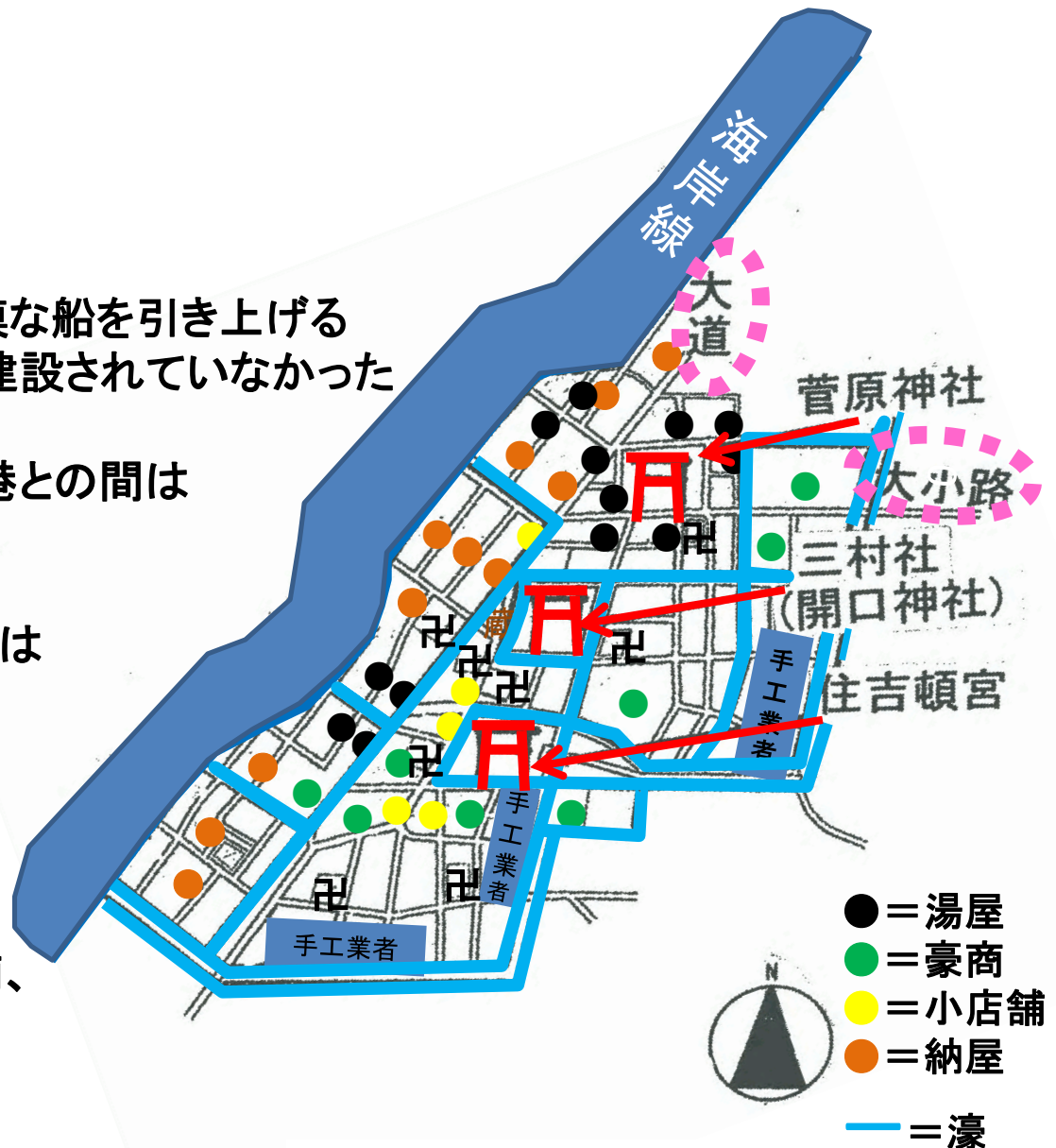


図 16世紀の市街地(南荘)と海岸線の様子

# 第2章

## 中世(1334~1602)

### 空間特性

- ・町は直接海岸に面していた
- ・海岸は砂浜・遠浅で、小規模な船を引き上げるだけの自然港であり、港は建設されていなかった
- ・大型船は沖合に停泊して、港との間は舢舨で連絡する必要があった
- ・町割りは碁盤目状でなく、濠は不整形に町を巡っていた
- ・市街地は大道が南北、大小路が東西を通る
- ・大道東側には豪商や小店舗、大道西側には納屋(蔵)や湯屋(旅館)が集積

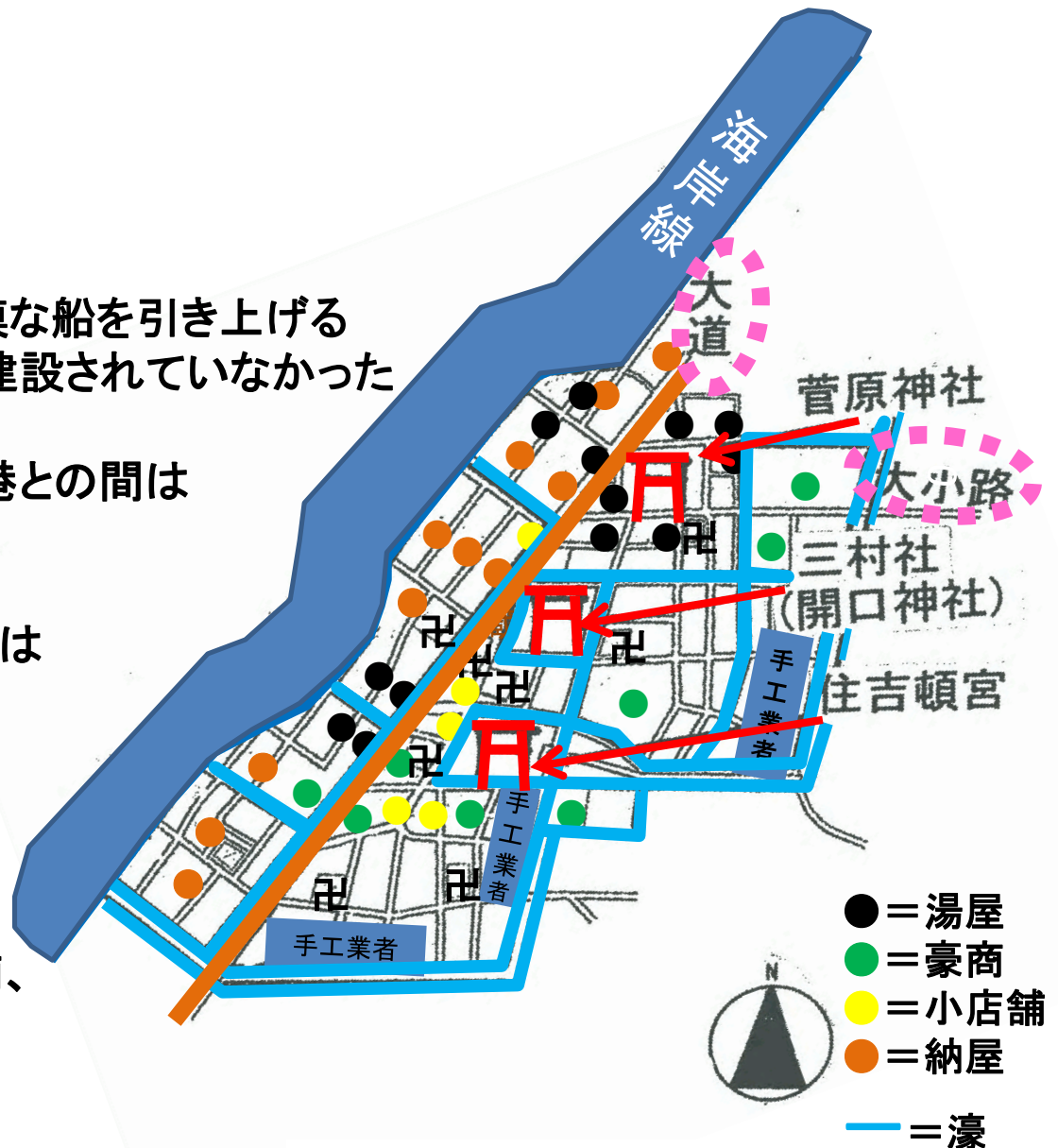


図 16世紀の市街地(南荘)と海岸線の様子

# 中世(1334~1602)

## 交易特性

- ・1476年に遣明船が堺から発着・帰着
- ・1551年遣明船が廃絶され、東南アジアや西欧との交易開始
- ・糸割符制度により繁栄
- ・絹・書画・生糸・香木・染料等を輸入し交易が盛んで交易港として最も栄えた

## 管理・運営特性

- ・15世紀前半には卸売りを行う問丸が発生し、物品を港付近の納屋(蔵)に保管・売却
- ・同時期に、納屋衆と呼ばれた倉庫業者の豪商が自治を始めた
- ・中世後期には10人の有力豪商による会合衆が自治を行った



図 南蛮貿易の様子(「南蛮屏風」)



# 中世(1334~1602)

## 交易特性

- ・1476年に遣明船が堺から発着・帰着
- ・1551年遣明船が廃絶され、東南アジアや西欧との交易開始
- ・糸割符制度により繁栄
- ・絹・書画・生糸・香木・染料等を輸入し交易が盛んで交易港として最も栄えた

## 管理・運営特性

- ・15世紀前半には卸売りを行う問丸が発生し、物品を港付近の納屋(蔵)に保管・売却
- ・同時期に、納屋衆と呼ばれた倉庫業者の豪商が自治を始めた
- ・中世後期には10人の有力豪商による会合衆が自治を行った



図 南蛮貿易の様子(「南蛮屏風」)

# 中世(1334~1602)

## 交易特性

- ・1476年に遣明船が堺から発着・帰着
- ・1551年遣明船が廃絶され、東南アジアや西欧との交易開始
- ・糸割符制度により繁栄
- ・絹・書画・生糸・香木・染料等を輸入し交易が盛んで交易港として最も栄えた

## 管理・運営特性

- ・15世紀前半には卸売りを行う問丸が発生し、物品を港付近の納屋(蔵)に保管・売却
- ・同時期に、納屋衆と呼ばれた倉庫業者の豪商が自治を始めた
- ・中世後期には10人の有力豪商による会合衆が自治を行った



図 南蛮貿易の様子(「南蛮屏風」)



# 近世前期(1603~1703)

## 空間特性

- ・前時代終盤に起きた慶長・伏見大地震、1615年の大阪夏の陣によって堺の町は壊滅的な被害を受けたが、徳川幕府によって町の再建が始まる
- ・1664年、大小路通り以北に**戎島が突如盛り上がってきた**
- ・江戸時代初期の和泉国絵図で「砂浜遠浅、磯より一ノ洲迄二百四十間余り...**遠浅片浜にて舟掛り悪敷**」
- ・西側の海岸を除く3方向に濠が巡り、町内の東端濠沿いに寺院が集められた環濠城壁都市が形成

## 交易特性

- ・堺商人は糸割符の配分が半減したことにより、交易港としての地位は低下
- ・1639年鎖国令以降、外国船が往来しなくなり、活気が消失
- ・堺会合衆によって町は自治が行われていた



図 近世前期の市街地と海岸線の様子



# 近世前期(1603~1703)

## 空間特性

- ・前時代終盤に起きた慶長・伏見大地震、1615年の大阪夏の陣によって堺の町は壊滅的な被害を受けたが、徳川幕府によって町の再建が始まる
- ・1664年、大小路通り以北に**戎島**が突如盛り**上がってできた**
- ・江戸時代初期の和泉国絵図で「砂浜遠浅、磯より一ノ洲迄二百四十間余り...**遠浅片浜にて舟掛り悪敷**」
- ・西側の海岸を除く3方向に濠が巡り、町内の東端濠沿いに寺院が集められた**環濠城壁都市**が形成

## 交易特性

- ・堺商人は糸割符の配分が半減したことにより、交易港としての地位は低下
- ・1639年鎖国令以降、外国船が往来しなくなり、活気が消失
- ・堺会合衆によって町は自治が行われていた



図 近世前期の市街地と海岸線の様子

# 近世前期(1603~1703)

## 空間特性

- ・前時代終盤に起きた慶長・伏見大地震、1615年の大阪夏の陣によって堺の町は壊滅的な被害を受けたが、徳川幕府によって町の再建が始まる
- ・1664年、大小路通り以北に**戎島**が突如盛り上げてできた
- ・江戸時代初期の和泉国絵図で「砂浜遠浅、磯より一ノ洲迄二百四十間余り...**遠浅片浜にて舟掛り悪敷**」
- ・西側の海岸を除く3方向に濠が巡り、町内の東端濠沿いに寺院が集められた環濠城壁都市が形成

## 交易特性

- ・堺商人は糸割符の配分が半減したことにより、交易港としての地位は低下
- ・1639年鎖国令以降、外国船が往来しなくなり、活気が消失
- ・堺会合衆によって町は自治が行われていた



図 近世前期の市街地と海岸線の様子



# 近世後期(1704～1867)

## 空間特性

- ・1704年大和川の付け替え後、港湾内に土砂が堆積し、いかに浚渫しても大型船の入港を不可能にした
- ・18世紀以降は海に向かって新田開発が進み、元来遠浅であった砂浜海岸が耕地化された
- ・天保期から幕末にかけて「旧堺港」が築港され、かぼちゃ型の現在の原型が完成した

## 交易特性

- ・鎖国政策が継続されており、港湾活動の様子や交易の相手・物を示している記述がほとんど見られない。



図 近世後期の海岸線の様子(1857)



# 近世後期(1704～1867)

## 空間特性

- ・1704年大和川の付け替え後、港湾内に土砂が堆積し、いかに浚渫しても大型船の入港を不可能にした
- ・18世紀以降は海に向かって新田開発が進み、元来遠浅であった砂浜海岸が耕地化された
- ・天保期から幕末にかけて「旧堺港」が築港され、かぼちゃ型の現在の原型が完成した

## 交易特性

- ・鎖国政策が継続されており、港湾活動の様子や交易の相手・物を示している記述がほとんど見られない。



図 近世後期の海岸線の様子(1857)

# 近世後期(1704～1867)

## 空間特性

- ・1704年大和川の付け替え後、港湾内に土砂が堆積し、いかに浚渫しても大型船の入港を不可能にした
- ・18世紀以降は海に向かって新田開発が進み、元来遠浅であった砂浜海岸が耕地化された
- ・天保期から幕末にかけて「旧堺港」が築港され、かぼちゃ型の現在の原型が完成した

## 交易特性

- ・鎖国政策が継続されており、港湾活動の様子や交易の相手・物を示している記述がほとんど見られない。



図 近世後期の海岸線の様子(1857)



# 近世後期(1704～1867)

## 管理・運営特性

- ・大和川の付け替え工事で土砂が堆積するようになる
- ・1790年頃、衰退する堺港を見かねた江戸商人吉川俵衛門が堺の有力商人と町の総力を挙げて港の改築を行った
- ・民間の力で現在の旧堺港の原型をつくった

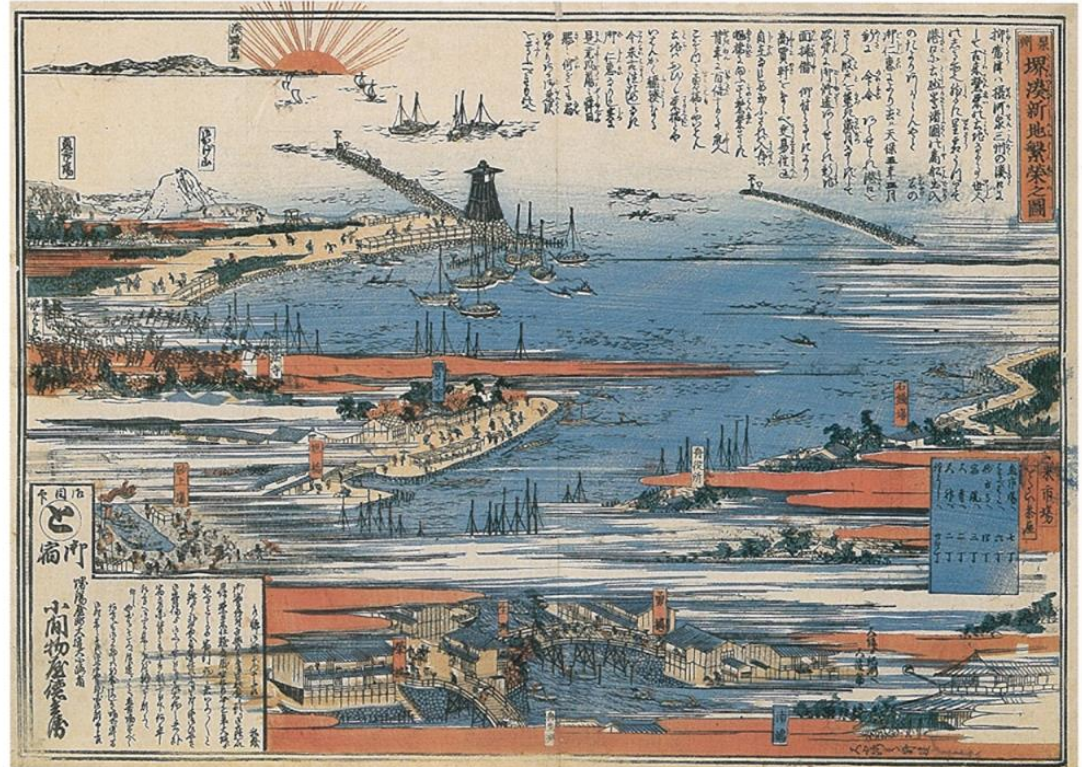


図 旧堺港の様子  
(「泉州堺湊新地繁栄之図」)(1836)



# 近世後期(1704～1867)

## 管理・運営特性

- ・大和川の付け替え工事で土砂が堆積するようになる
- ・1790年頃、衰退する堺港を見かねた江戸商人吉川俵衛門が堺の有力商人と町の総力を挙げて港の改築を行った
- ・民間の力で現在の旧堺港の原型をつくった

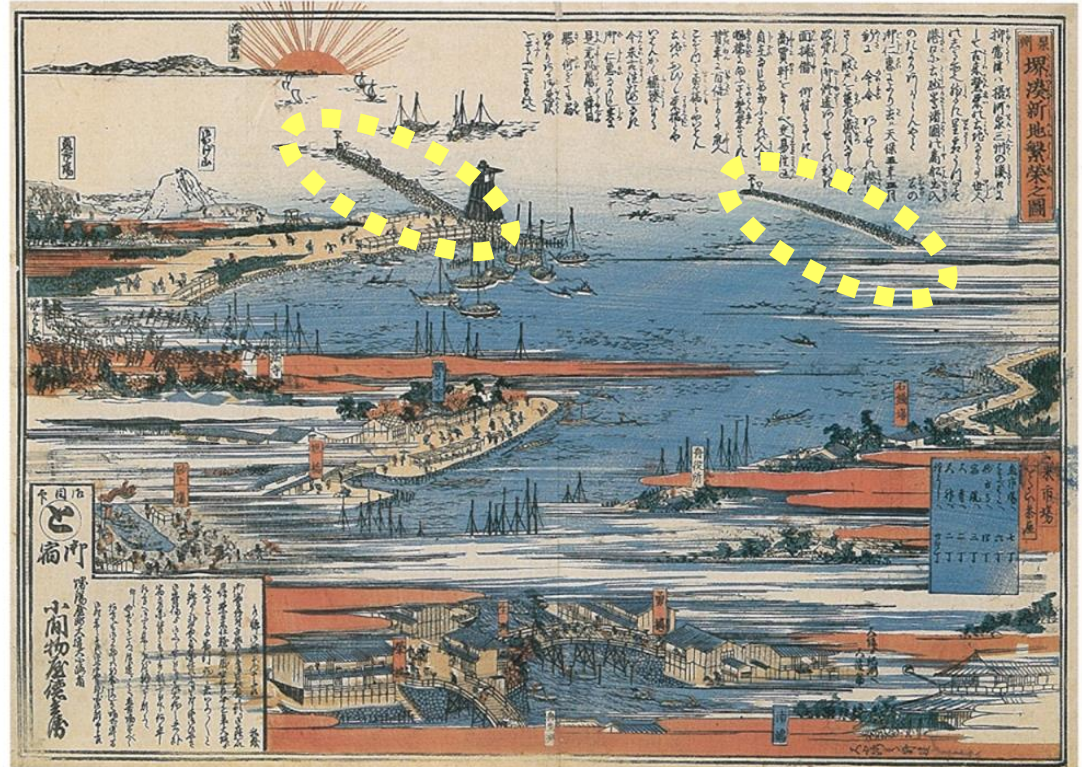


図 旧堺港の様子  
(「泉州堺湊新地繁栄之図」)(1836)

# 近世後期(1704～1867)

## 管理・運営特性

- ・大和川の付け替え工事で土砂が堆積するようになる
- ・1790年頃、衰退する堺港を見かねた江戸商人吉川俵衛門が堺の有力商人と町の総力を挙げて港の改築を行った
- ・民間の力で現在の旧堺港の原型をつくった

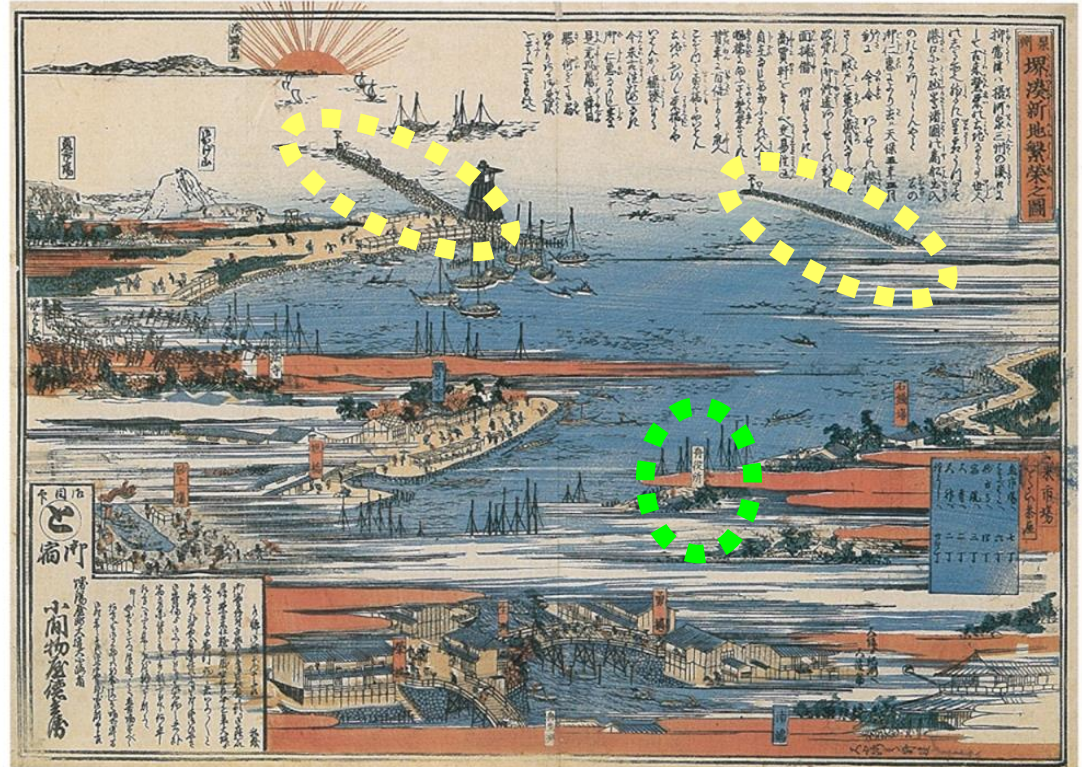


図 旧堺港の様子  
(「泉州堺湊新地繁栄之図」)(1836)



# 近世後期(1704～1867)

## 管理・運営特性

- ・大和川の付け替え工事で土砂が堆積するようになる
- ・1790年頃、衰退する堺港を見かねた江戸商人吉川俵衛門が堺の有力商人と町の総力を挙げて港の改築を行った
- ・民間の力で現在の旧堺港の原型をつくった

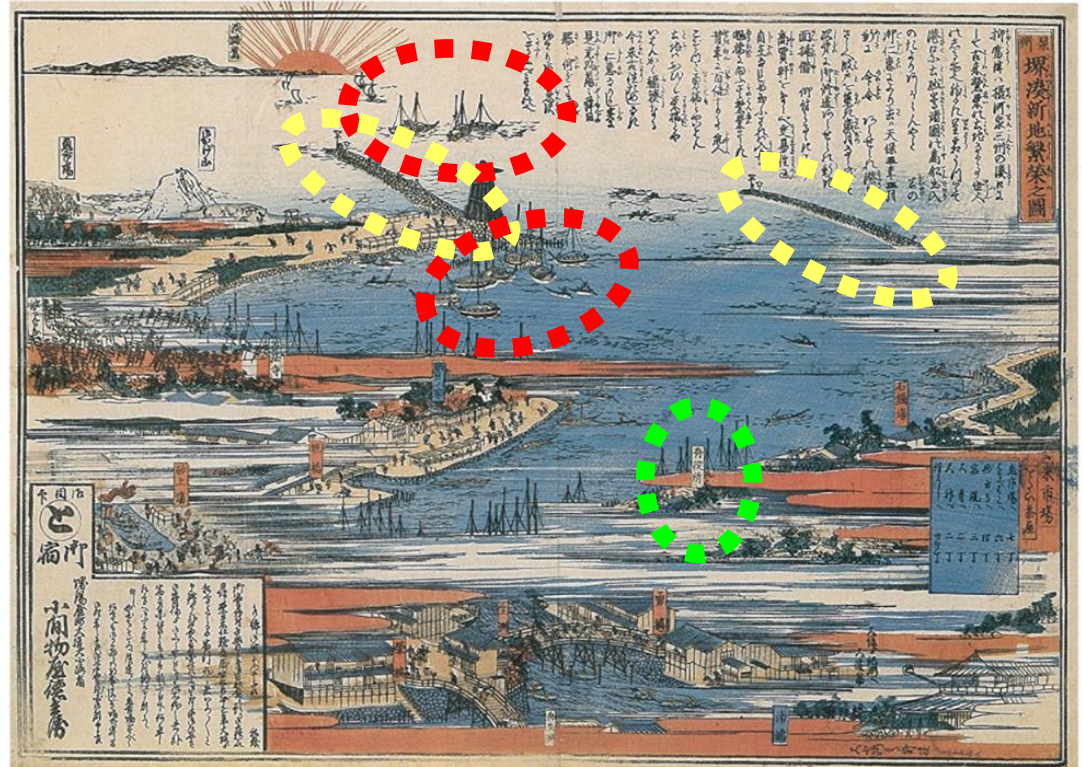


図 旧堺港の様子  
(「泉州堺湊新地繁栄之図」)(1836)



# 第3章

## 近代前期(1868~1945)

空間  
特性

- ・1889年南海本線が開通し、旧堺港の東側に堺駅が建設された
- ・旧堺港の南側の大浜には大浜公園が開園
- ・公園内に海水浴場・水族館などの施設も加わり、1903年に内国勧業博覧会の会場になり、堺駅を利用して、旧堺港一帯は非常に賑わった

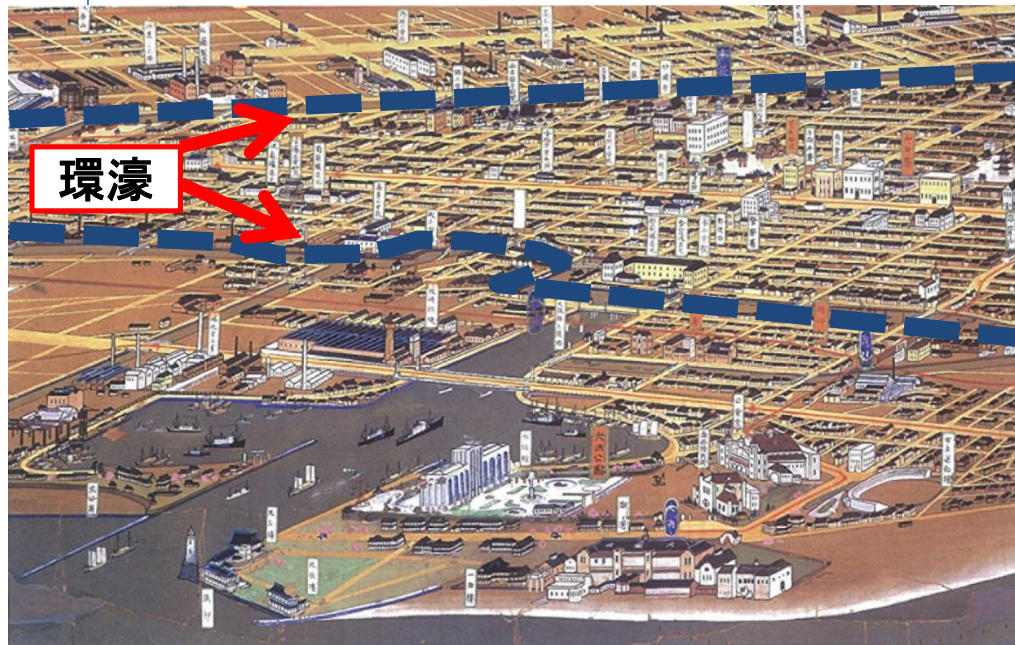


図2 近代前期の旧堺港と市街地の様子(1935)



図1 近代前期の旧堺港と市街地の様子(1901)

- ・1928年北波止の埋め立てが進んだが、港内の水深はまだ浅く、外港貨物を小舟に移しかえる必要があった
- ・旧堺港湾内は市内から汚水雨水の排水により水質が悪化するなど、徐々に衰退していく



# 第3章

## 近代前期(1868~1945)

空間  
特性

- ・1889年南海本線が開通し、旧堺港の東側に堺駅が建設された
- ・旧堺港の南側の大浜には大浜公園が開園
- ・公園内に海水浴場・水族館などの施設も加わり、1903年に内国勸業博覧会の会場になり、堺駅を利用して、旧堺港一帯は非常に賑わった

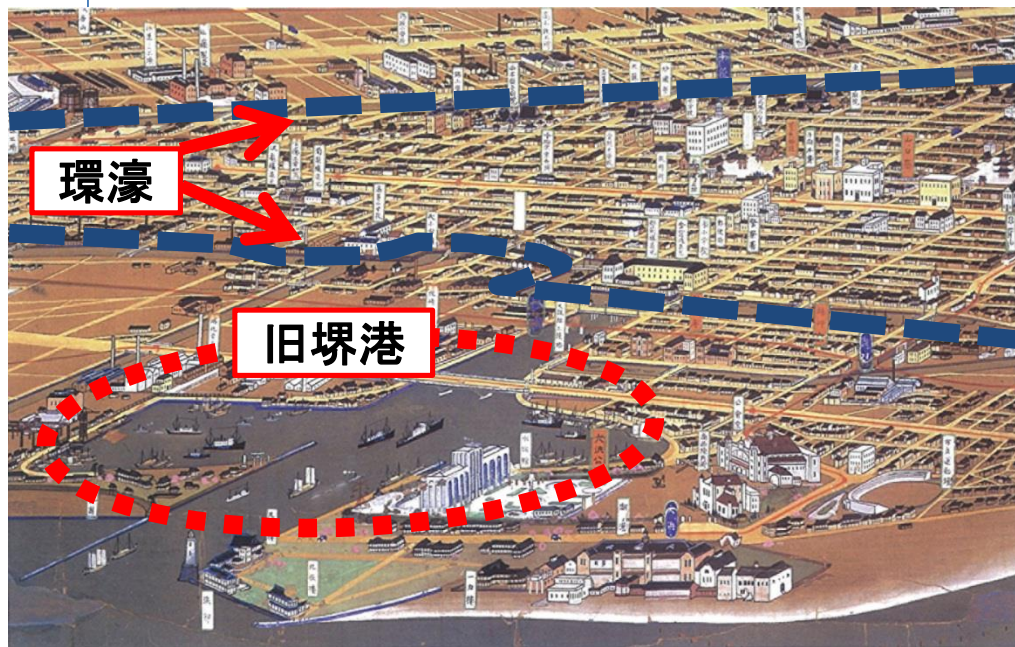


図2 近代前期の旧堺港と市街地の様子(1935)

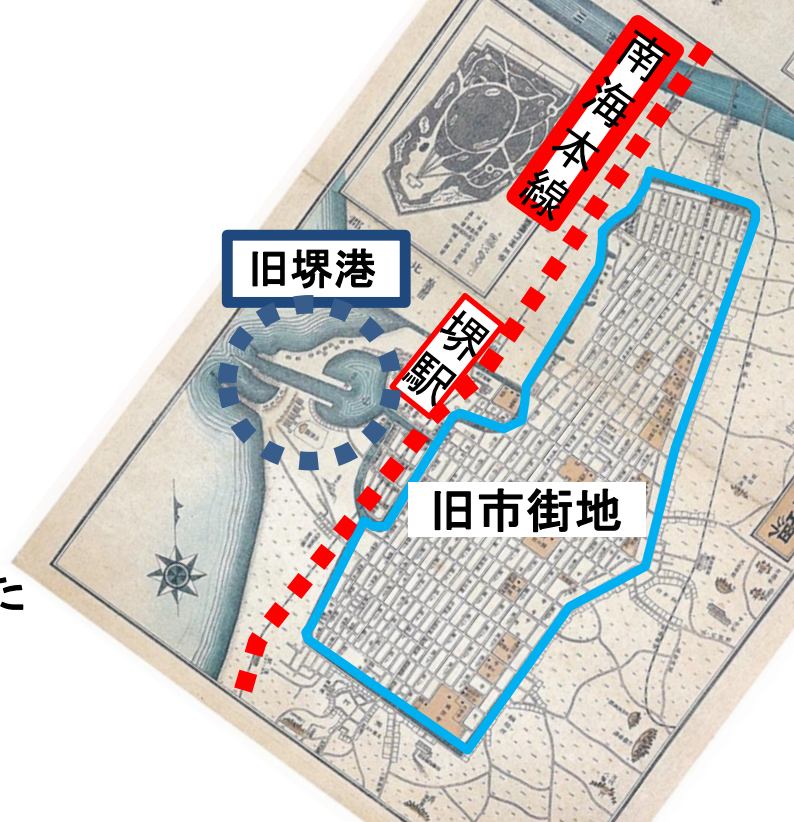


図1 近代前期の旧堺港と市街地の様子(1901)

- ・1928年北波止の埋め立てが進んだが、港内の水深はまだ浅く、外港貨物を小舟に移しかえる必要があった
- ・旧堺港湾内は市内から汚水雨水の排水により水質が悪化するなど、徐々に衰退していく



# 第3章

## 近代前期(1868~1945)

空間  
特性

- ・1889年南海本線が開通し、旧堺港の東側に堺駅が建設された
- ・旧堺港の南側の大浜には大浜公園が開園
- ・公園内に海水浴場・水族館などの施設も加わり、1903年に内国勸業博覧会の会場になり、堺駅を利用して、旧堺港一帯は非常に賑わった

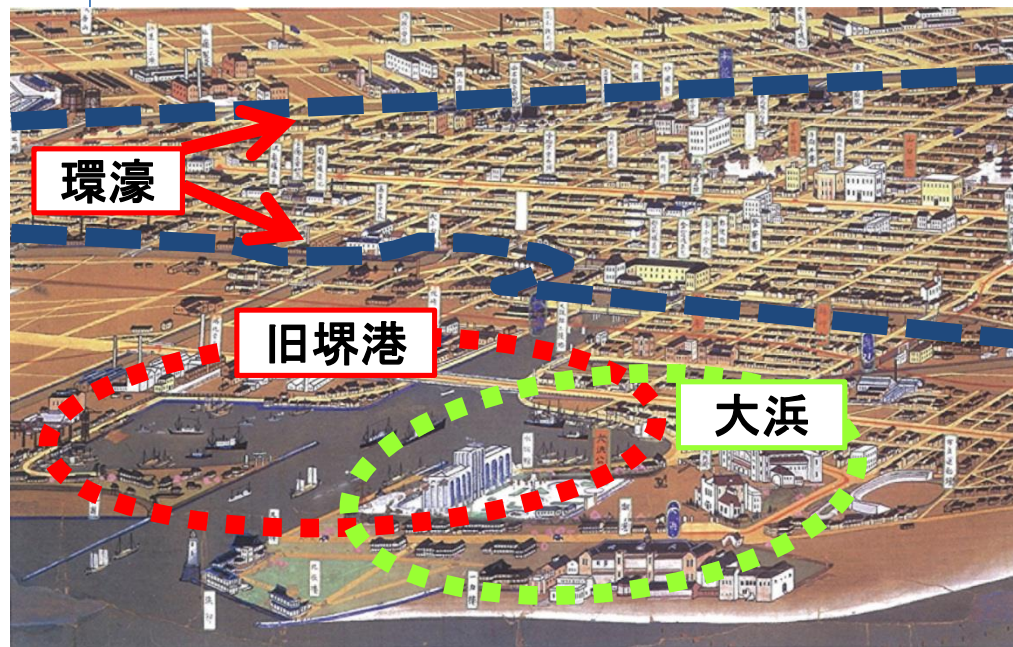


図2 近代前期の旧堺港と市街地の様子(1935)



図1 近代前期の旧堺港と市街地の様子(1901)

- ・1928年北波止の埋め立てが進んだが、港内の水深はまだ浅く、外港貨物を小舟に移しかえる必要があった
- ・旧堺港湾内は市内から汚水雨水の排水により水質が悪化するなど、徐々に衰退していく



# 第3章

## 近代前期(1868~1945)

空間  
特性

- ・1889年南海本線が開通し、旧堺港の東側に堺駅が建設された
- ・旧堺港の南側の大浜には大浜公園が開園
- ・公園内に海水浴場・水族館などの施設も加わり、1903年に内国勧業博覧会の会場になり、堺駅を利用して、旧堺港一帯は非常に賑わった

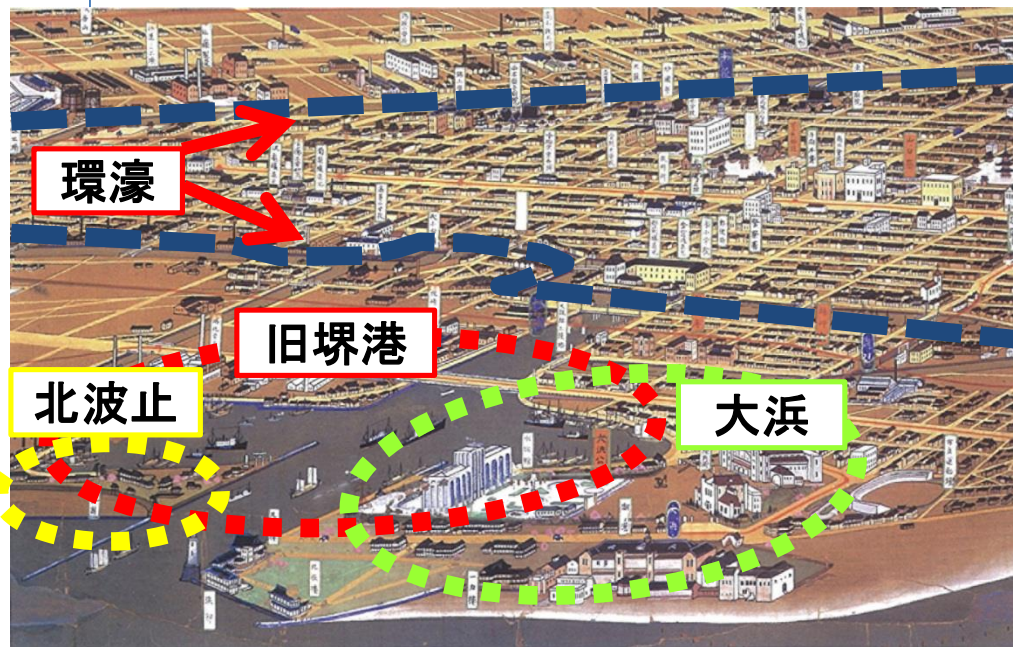


図2 近代前期の旧堺港と市街地の様子(1935)



図1 近代前期の旧堺港と市街地の様子(1901)

- ・1928年北波止の埋め立てが進んだが、港内の水深はまだ浅く、外港貨物を小舟に移しかえる必要があった
- ・旧堺港湾内は市内から汚水雨水の排水により水質が悪化するなど、徐々に衰退していく



# 近代後期(1946~1989)

## 空間特性

- ・第2次世界大戦で中止されていた埋め立て工事が再開
- ・第2区から第6区を中心にコンビナート化が進んだ
- ・阪神高速4号湾岸線が海と市街地を切り離す形で開通した

→旧堺港一帯は、海岸線からも市街地からも遠い存在となった

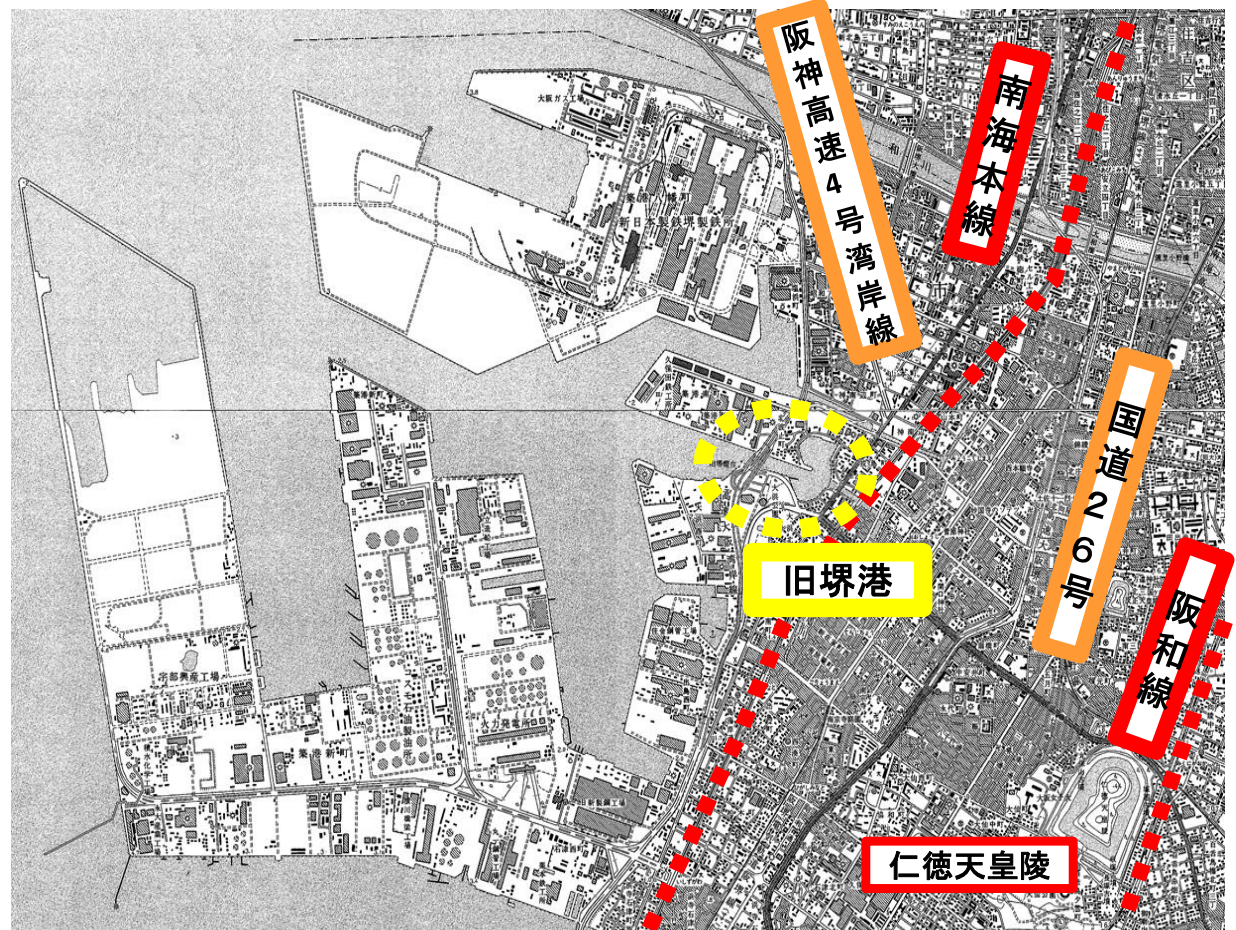


図 近代後期の旧堺港と市街地の様子(1987)



# 近代後期(1946~1989)

## 空間特性

- ・第2次世界大戦で中止されていた埋め立て工事が再開
- ・第2区から第6区を中心にコンビナート化が進んだ
- ・阪神高速4号湾岸線が海と市街地を切り離す形で開通した

→旧堺港一帯は、海岸線からも市街地からも遠い存在となった

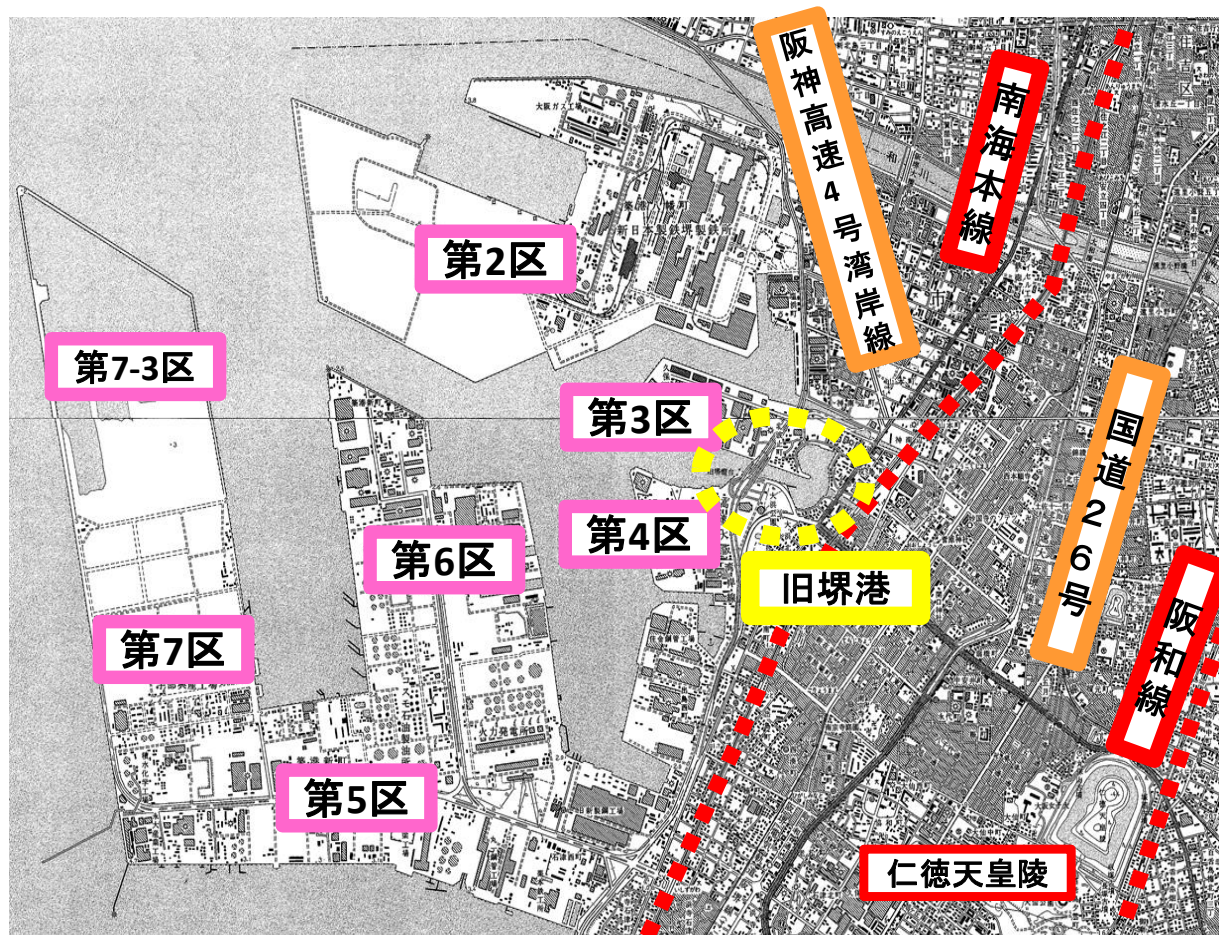


図 近代後期の旧堺港と市街地の様子(1987)



# 近代後期(1946~1989)

## 空間特性

- ・第2次世界大戦で中止されていた埋め立て工事が再開
- ・第2区から第6区を中心にコンビナート化が進んだ
- ・阪神高速4号湾岸線が海と市街地を切り離す形で開通した

→旧堺港一帯は、海岸線からも市街地からも遠い存在となった

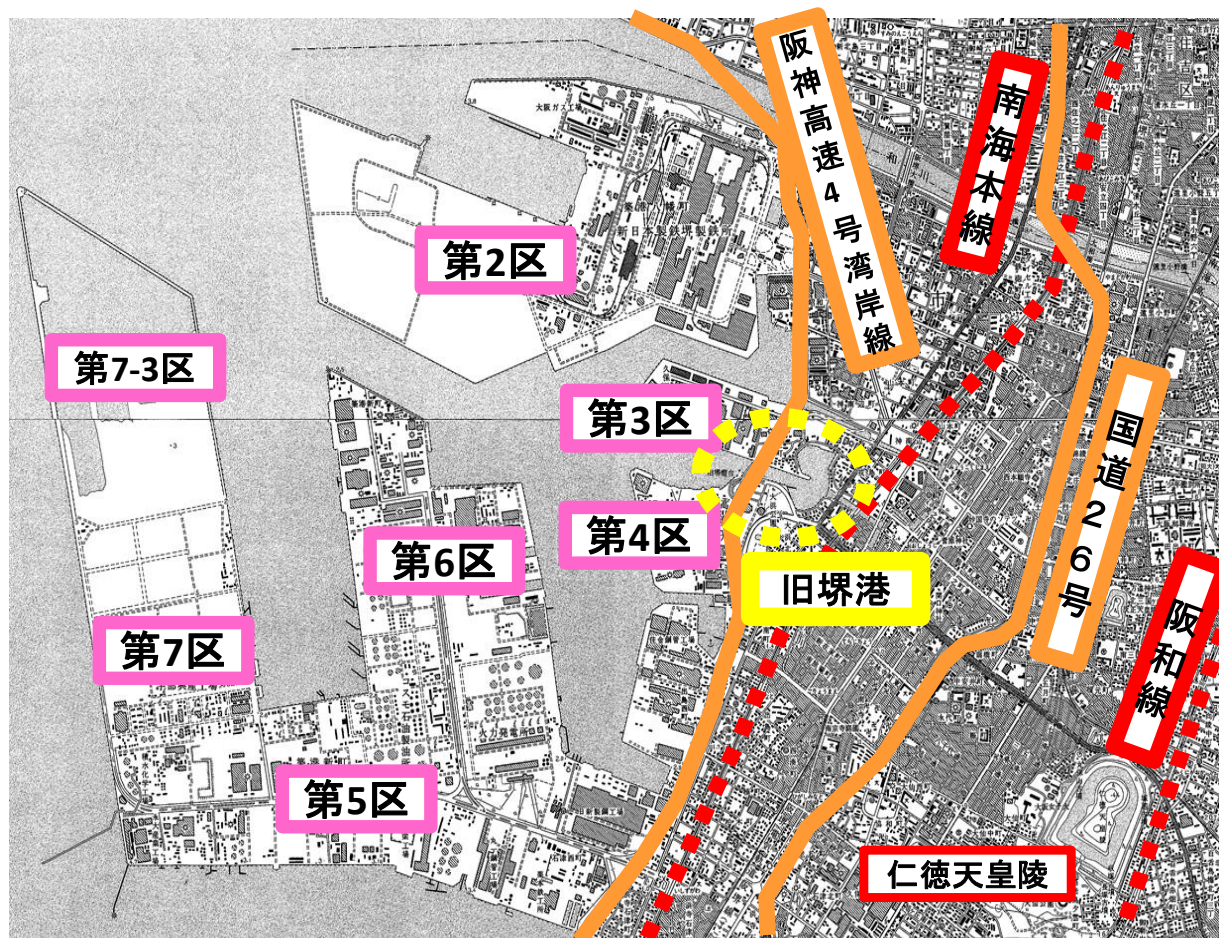


図 近代後期の旧堺港と市街地の様子(1987)



## 第4章 まとめ

- 中世
  - ・会合衆による町の自治が行われた
  - ・日明貿易、南蛮貿易港として栄え、黄金期を迎えていた
- 近世
  - ・大和川の付け替えによって大量の土砂が堆積し始める
  - ・堺商人、時には江戸商人が主導となり、町の総力を挙げて港の改築が行われた
  - ・旧堺港の原型が民間の力によって完成された
- 近代
  - ・埋立地のコンビナート化や高速道路の開通によって旧堺港一帯は海岸線からも市街地からも遠い存在になった



現在、旧堺港は近世後期に造りあげられた独自の形状を今もなお保っており、国指定史跡である旧堺燈台、江戸時代から残る石積み護岸、砲台跡など貴重な歴史的資源が残っており、それらを活かした活性方法が求められる。

その際、最寄駅となる南海本線堺駅と旧堺港をどのように繋げていくかが重要な課題となると考える。